

新築9年目、自宅を再建したいが”二重ローン”の壁

移動なんでも相談会
亘理郡・亘理町東郷

9月17日、“移動なんでも相談会”が亘理郡亘理町の東郷公共ゾーン仮設住宅で開催されました。宮城県医連からは、山田裕先生や阿南陽二先生の医師2人、薬剤師、看護師、放射線技師、社会福祉士、事務など合計15人がボランティア参加しました。

仮設住宅は約500戸あります。集会所で医師・看護師などによる健康相談が行われたほか、日用品の配布、山形のいも煮が振る舞われ大変喜ばれていました。

亘理で被災した安田京子さん(67)は、自宅が全壊し大木が流れ込んできていると話してくれました。自宅には赤紙が貼られ立ち入りは禁止ですが、夫の重男さんは毎朝5時に自宅へ通い、少しずつ手を入れ、何とか住みたいと話していました。京子さんは避難所、仮設住宅にいて血圧が高くなってきて、夜もなかなか眠れない。それでも同じ地域の人が近くに住んでいるので精神的には助かります。また、探していた位牌が見つかって嬉しかった。「みんなに助けられて生活ができるようになってありがたい」と話していました。

今回はじめてボランティア参加したという社会福祉士の成澤愛さんは、「入居者に合わせて入口にスロープが取り付けられている住まいがありました。自宅に上がらせていただいて、被災者のお話を伺う事ができて、大変勉強になりました。」と話していました。



安田さんの支援物資を運ぶ成澤さん

被災者に国は素早い対応を

連休を利用して東京民医連・立川相互病院から支援に駆けつけた長壁きみえ、藤原裕美子、村田公子さんは、仮設住宅を訪問しました。荒浜で被災した60歳代の女性宅では、「地震はあっても津波は来た事がないので安心していた。近所で6m以上の津波が来ると言うので必死で逃げた。防災無線の放送はなかった。」といます。仮設住宅は、6畳、4.5畳、4畳に家族5人で生活していますが、狭くて荷物は知人宅に預かってもらっているといます。自宅を新築して9年目で自宅を流されてしまいました。いつか家を再建したいと思っているが、ローンを払っている途中で自宅が流され“二重ローン”になってしまうので、どうしたらよいかかわからないと話していました。



東京民医連からの藤原、長壁、村田さん

長壁さんは、「7軒訪問して、お宅は全壊と言う人が殆どだった。(荒浜地区)、これからの生活や再建の目処はなかなか立たない中で、とても大変そうなのに、明るく対応して頂いた。被災された方は節約しながら生活しているが、様々な場面で国が素早い対応をしてほしい」と話していました。



太田君のTシャツには
見せましょう 野球の底力を!

仙台市荒浜地区は海が近いので津波の被害が大きく180人以上が亡くなっています。荒浜小学校の太田強(11)、菊地伸太郎(10)、佐藤海斗(10)君の仲良し3人組は、校舎が壊滅的被害で使えず逢隅小学校に通っています。

野球部の太田君は、学校のグラウンドが使えず、河川敷公園で野球の練習をしています。あまり多くは語りませんが悲しい事がいっぱいありました。それでも野球をしているときは野球のことだけを考えていると言います。

短い時間しかキャッチボールができませんでしたが、ボランティア参加される時は、グローブ、サッカーボール、バドミントンなどをなんでもいいので持参して、子どもたちと遊んで下さい。一緒に遊ぶことで、子どもたちは笑顔を取り戻します。(S.J)